

2025 年度 第 3 回鋼材規格三者委員会 議事録

1. 日 時： 2025 年 12 月 17 日（水）14:00～17:05

2. 場 所： ハイブリッド会議（対面：鉄鋼会館 801 室＋Web：Teams）

3. 出席者：（敬称略）

委員長：榎（東京工科大学）

副委員長：緒形（物質・材料研究機構）、田中（東京理科大学）、藤原（EMF 応用計測）

委 員：相川*（日本水道協会）、荒井（日本製鉄）、池田（神戸製鋼所）、沖*（建築研究所）、
木下（日本規格協会）、栗原（日本伸銅協会）、近藤*（日産自動車）、塩田*（IHI）、
鈴木*（日本鋼構造協会）、高橋*（日本アルミニウム協会）、辻村*（日本金属継手協会）、
中澤（JFEスチール）、中山*（日本海事協会）、蓮井*（日鉄SGワイヤ）、
林（元理化学研究所）、藤井*（日本試験機工業会）、藤田（北海道大学）、
古市（日本検査キューエイ）、八木*（大同特殊鋼）、山田*（東京大学）

（委員長・副委員長・委員計24名、*Web参加）

欠 席：金岡（住友電工ハードメタル）、桑原（東京農工大学）、種物谷（高圧ガス保安協会）、
千葉（関西学院大学）、富山（土木研究所）、判治（名古屋大学）

幹 事：松本（鉄鋼連盟）

（幹事 1 名）

関係者：菊田（経済産業省）、坂本*（国土交通省）

（関係者計 2 名）

事務局：越川・井田・齊藤・玉田・田谷・山本（鉄鋼連盟）

（事務局計 6 名）

4. 議題及び配布資料

1) 報告事項

資料 1-1：2025 年度 第 3 回鋼材規格三者委員会名簿

資料 1-2：2025 年度 第 1 回鋼材規格三者委員会議事録

資料 1-3：2025 年度 第 2 回鋼材規格三者委員会議事録（事前調査表・定期見直し票の書面審議）

資料 16-1,16-2：ISO/TC 17 活動報告

2) JIS 規格審議

<改正>

資料 2：JIS A 5528 熱間圧延鋼矢板

資料 3：JIS G 4110 高温圧力容器用高強度クロムモリブデン鋼
及びクロムモリブデンバナジウム鋼鋼板

資料 4：JIS G 3119 ボイラ及び圧力容器用マンガンモリブデン鋼
及びマンガンモリブデンニッケル鋼鋼板

資料 5：JIS G 3452 配管用炭素鋼鋼管

資料 6：JIS G 3454 圧力配管用炭素鋼鋼管

資料 7：JIS G 4051 機械構造用炭素鋼鋼材

資料 8：JIS G 4052 焼入性を保証した構造用鋼鋼材（H鋼）

資料 9：JIS G 4053 機械構造用合金鋼鋼材

資料 10：JIS G 4802 ばね用冷間圧延鋼帯

資料 11：JIS G 1223 鉄及び鋼－チタン定量方法－吸光光度法
＜制定＞

資料 12：JIS G 1220-1 鉄及び鋼－タングステン定量方法
－第 1 部：シンコニン沈殿分離酸化タングステン（VI）重量法

資料 13：JIS G 1220-2 鉄及び鋼－タングステン定量方法－第 2 部：チオシアン酸塩吸光光度法
＜廃止＞

資料 14：JIS G 1220 鉄及び鋼－タングステン定量方法

3) JIS 正誤表審議

資料 15：JIS G 1212-1 鉄及び鋼－けい素定量方法－第 1 部：二酸化けい素重量法

5. 議事内容及び結果

委員交代の紹介、議題・資料の確認及び榎委員長のご挨拶の後、以下の議事が進められた。

5.1 幹事から、委員会名簿及び 2025 年度第 1 回鋼材規格三者委員会の議事録が報告された。第 1 回の議事録は、会議後に既に承認されており、特にコメントはなかった。また、2025 年度第 2 回鋼材規格三者委員会として、2026 年度案件の事前調査表（制定 9 件、改正 23 件、廃止 3 件）及び令和 7 年度 JIS の定期見直し調査票についての書面審議が行われ、承認されたことが、議事録で報告された。承認された結果は、意見受付の実施の結果、本議決結果に変更が生じない場合には、再審議しない方針が確認された。

5.2 JIS 規格審議案件の改正 10 件、制定 2 件及び廃止 1 件について、事務局から内容が説明され、主に以下の質疑応答があった。

- 1) 栗原委員から、資料 10（**JIS G 4802**）に関し、“表 1 の適用厚さに単位が必要ではないか。”とのコメントがあった。担当主査から、単位がミリメートルであることを追記することが回答され、承認された。
- 2) 田中副委員長から、資料 11（**JIS G 1223**）に関し、“補償溶液に関する操作は、見直し必要ではないか。”とのコメントがあった。担当主査から、2025 年に改訂された対応国際規格どおりの操作であり、F02.03 鉄鋼分析分科会でも反対意見がなかったことが回答されたが、今後の検討課題とした。また、補足資料中の誤記訂正（**JIS G 1237→JIS G 1223**）の説明があった。

上記の他、改正・制定 JIS 案は、規格ごとのコメントシートに記載されたとおり、修正することとし、改正 10 件、制定 2 件及び廃止 1 件は、いずれも承認された。

5.3 資料 15（**JIS G 1212-1:2023** の正誤表）について、担当主査から内容が説明された。菊田氏から、対照表の作成要否の判断基準について質問があり、担当主査から、分析操作で他箇条を引用する場合に作成することが説明された。また、榎委員長から、誤記の発見経緯について質問があり、鉄鋼分析会社で JIS 改正内容を作業標準に反映する際に発見したことが説明された。審議の結果、資料 15 は、承認された。

5.4 事務局から、ISO/TC 17（鋼）の活動状況について報告があった。

5.5 幹事から、2026 年度第 1 回鋼材規格三者委員会は、2026 年 7 月 30 日（木）午後、ハイブリッド会議として開催予定であること報告された。

以上